個性尊重と「学生中心主義」のもと、伝統のゼミと充実の理数系・国際教育で自分らしく社会に貢献する人材を育成

文部次官や東北・京都帝国大学総長などを歴任し、近代日本の教育制度の確立に大きく貢献した澤柳政太郎博士(1)が、人それぞれが持つ天分を伸ばす「本当の教育」を実践する実験校として1917年に創立した成城学園。その建学の精神を受け継ぐ成城大学では、教育と研究の軸となる伝統のゼミナールをはじめ、人文・社会科学系大学としてはいち早く導入したデータサイエンス科目群や独自の国際教育プログラム「SIEP(2)」など、学習者本位の先進的なカリキュラムを整備。学生たちが多くの経験から成長できるよう、体験的な学びを大切にしています。さらに自治と自律を重んじ、学生たちの自主的な活動を促す土壌があります。そのような環境で学生たち一人ひとりの個性が花開き、卒業後は自分らしさを生かしつつ他者と協働しながら社会に貢献する人材が育っています。

すぎもとよしゆき
杉本義行学長

1980年東京大学農学部農業経済学科卒業。83年同大学大学院農学生命科学研究科博士課程中退。農学博士(東京大学)。千葉大学講師、成城大学経済学部教授、副学長などを経て2022年より現職。公益財団法人電通育英会評議員なども務める。

成城大学

〒157-8511　東京都世田谷区成城６-１-20　入学センター　TEL 03-3482-9100　https://www.seijo.ac.jp/

「学生中心主義」で先導的な大学改革を展開

成城学園の歴史は、１９１７年に「科学的研究を基とした実験学校」として開設された私立成城小学校に遡ります。２００５年に日本で初めて学部名称にイノベーションを用いた社会イノベーション学部を開設。２０１５年には人文社会系大学としてはいち早くデータサイエンス科目群を全学的に開講するなど、先導的な教学改革に取り組んでいますが、その根底にあるのは、学園創設者・澤柳政太郎の「個性尊重」の思想である、と杉本義行学長は話します。

「この個性尊重には二つの意味があります。一つは個々の学習者の学び方の尊重、少人数教育による『個別最適化』の教育であり、もう一つが『他者の個性の尊重』です。これこそは多様性、包摂性の教育であり、現代のＳＤＧｓの考え方に通じるものと言えるでしょう。幼稚園から大学院まで、異年齢の児童、生徒、学生がワンキャンパスで学ぶ環境も、学生にすぐれた影響を与えていると思います」

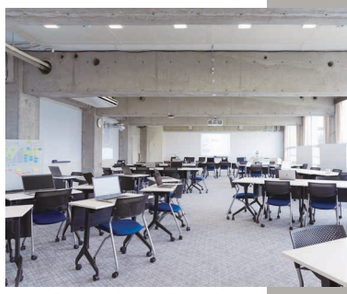
さらに、この個性尊重の教育は、学生を起点に考える成城学園の『学生中心主義』に繋がっています。

「成城大学では学生の声を聞き、より良い学びの環境を実現することを目的として２０２１年度から『学長賞懸賞コンペティション』を開催しています。２０２２年度最優秀賞に選ばれたチームは、大学内の食のバリアフリーを目指したプラントベースフードを提案。企業と協力して試作品を作り、実際に学食のメニュー化に成功しました。２０２３年度は成城大学の生涯学習支援事業『成城学びの森』の告知チラシの刷新を提案したチームが最優秀賞を受賞。大学職員や印刷会社と話し合いを重ね、チラシを完成させました。提案だけで終わるのではなく、学内外の人々と協力をしながら目標を実現する学生たちの行動力に毎年感銘を受けています。成城大学の自慢は学生です。これからも学生ファーストの大学改革を進めていきます」と杉本学長は話します。また、高大連携にも積極的に取り組んでおり、現在14校の高等学校と協定を締結。模擬授業や大学見学など高校生たちの探究授業をサポートしています。

データサイエンス科目で「理数系教育」を強化

成城大学では全学生を対象にデータサイエンス関連科目を開講しています。所定の科目を修了した学生にディプロマを発行する「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」は文部科学省の『数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）』および『同プログラム（応用基礎レベル）』に認定されています。

「社会課題に取り組むには批判的思考、すなわちクリティカルシンキングが必要ですが、そこで大切なのが、エビデンス（根拠）を提示したり吟味する力です。また、社会課題の解決には多様な考え方が必要です。本学ではデータサイエンス領域をしっかりと学ぶとともに、分野横断的な科目や、課題解決型科目の充実をさらに図っていきます。その一例といえるのが、文芸学部国文学科の小林ゼミとデータサイエンス教育研究センターが共同して実施した課題解決型授業です。キャンパス内の樹木のうち、萬葉集に収録されている和歌に登場する樹木を選んで和歌と歌人名を記した萬葉歌プレート（銘板）が設置されています。小林ゼミの学生たちはこの萬葉歌プレートにある和歌の解説文の執筆と、キャンパスを模したメタバース空間の制作に挑戦し、メタバース空間内をアバターが移動しながら和歌を楽しめるコンテンツを制作しました。国文学の知識とデータサイエンスのスキルを融合させて体験的に学ぶ経験となったようです。」（杉本学長）



データサイエンススクエア

「学生中心」の教育を実践する成城大学が、よりよい学習環境をめざして新たな校舎を建設します

(1) 澤柳政太郎（1865-1927）

成城学園創立者。文部省の官僚であり、教育学者あるいは思想家としても著名。大正自由教育運動で中心的役割を果たす。文部次官のほか東北帝国大学初代総長、京都帝国大学総長なども歴任。文部省の局長時代には義務教育の４年から６年への延長、小学校の教科書の無償化を行うなど、わが国の教育制度の整備に大きく貢献した。さらに東北帝国大学総長在任時に、日本で初めて女性の入学を認めたことでも知られる。

(2) 成城国際教育プログラム（SIEP）

「Seijo International Education Program」の略。世界共通言語である英語により、グローバル社会で求められる幅広い教養や知識、コミュニケーション能力を身につけ、海外留学・海外インターンシップを目指す。

(3) サポーター

全国のサポーター団体の相互理解と連携を目的として毎年「サポーターズフォーラム」を開催。他大学や高校からも多数の参加があり、ディスカッションやグループワークを通して交流を深めている。

「国際教育」の核となる“SIEP”成城国際教育プログラム

成城大学では語学力の向上だけでなく、実際に外国の文化に触れ、異文化と交流する経験を通じて「世界的な視野に立ち行動できる人材」の育成を目指しています。

その中核をなすのが成城国際教育プログラム「SIEP」です。各自の英語レベルと留学時期に合わせた履修モデルをベースに、専属教員による予約制の個別指導や、留学生と共に学ぶ英語開講科目などを受講。夏季や春季の休業期間を利用しての「海外短期語学研修」などもあり、グローバル社会で求められる幅広い国際教養やコミュニケーション力を修得した後、留学や海外インターンシップに臨みます。

「現在、留学先として北米、ヨーロッパ、アジア、オセアニアの大学と協定を結んでおり、毎年協定校の数を増やしています。ＳＩＥＰの教育効果はＩＥＬＴＳやＴＯＥＦＬなど英語外部試験での成績の向上を見ても明らかです」（杉本学長）

特に海外インターンシップでは、現地で就業体験を行うだけでなく、企業研究や語学研修など事前学習から企業担当者に向けた事後報告会まで、約８カ月をかけて語学力と就業力を養っていきます。

学生の自律的な成長を促すサポート活動

「世界の情勢を見ても、私たちが歴史上の大転換期の真っただ中にいることは間違いありません。10年後、20年後の世界が分からない現代においては、知識やスキルだけでなく、多様な人々と対話し、課題を解決する能力が求められます」と杉本学長は語ります。成城大学では、独自のキャリアサポート「Seijo Career Program」を実施。「働く×学ぶ×貢献する×生きる」をコンセプトに、4年間を通して、自己理解と多様な人々との関わりの中で、学生の主体的なキャリア構築を促します。さらに人材育成企業との協働によるキャリア支援プログラム「澤柳塾」も開講。こうした取り組みにより、企業の人事担当者による就業力ランキングでも高い評価を獲得しています*。

「大学では決して失敗を恐れず、安心してさまざまな経験にチャレンジし、より深い学びを手にしてください。本学では皆さんが成長するためにワクワクして学べる機会を用意しています」と杉本学長はエールを送っています。

民俗学からジェンダー問題、治療的司法まで多彩な研究拠点

より高度で先進的な研究・教育を行う機関としては、４大学院研究科・10専攻に加え、日本民俗学の創始者・柳田國男より寄贈された蔵書を中心に約10万冊の図書や民俗資料を所蔵する「民俗学研究所」をはじめ、「経済研究所」「グローカル研究センター」「国際編集文献学研究センター」「スポーツとジェンダー平等国際研究センター」、そして日本初の「治療的司法研究センター」が多彩な研究活動を行っています。

独自のキャリアサポートで生涯を通じた「就業力」を育成

自治自律を重んじる校風が表れているのがサポーター(3)活動です。特に、学習に対する困りごとやレポートの書き方などについて、コーチングやファシリテーションの研修を受けた学生がサポートする「ピアサポーター」の活動は、学外からの評価も高く、ＪＡＳＳＯ（日本学生支援機構）の調査報告書に先進事例として取り上げられました。ピアサポーターのほかにも国際交流、キャリア、バリアフリー、ライブラリー、データサイエンスといった様々な領域でサポーター学生が活躍しています。学生が互いに支援し、学びあう学習環境は、学生の成長を促し、人格形成に良い影響を与えています。

カフェのような居心地のよい空間で、授業が行われることもある８号館の「Lounge#08」

*日経キャリアマガジン特別編集『価値ある大学　就職力ランキング2025-2026』(株式会社日経HR発行)の「中小規模大学版」で成城大学は東京都で2位、総合ランキングでも11位を獲得。